

図書館通信



の催しもの

市貝町立図書館
〒321-3423
栃木県芳賀郡市貝町 市塙147
Tel 0285-68-4380
URL <http://www.library.ichikai.tochigi.jp/>

としかんのひとりごと ブログはこちら

ツイッターでも
情報配信中!



市貝町立図書館『いっとくん』
@ittokun_ichikai

★バレンタインチョコプレゼント★

期間：2月14日（日）※なくなり次第終了
内容：資料を借りた方にバレンタインチョコをプレゼントします。※状況により中止する場合あり

お問い合わせ：市貝図書館 ☎68-4380

歴史民俗資料館のイベント

★第42回企画展「古墳時代の市貝町」★

期間：2月13日（土）～3月28日（日）
※休館日は図書館に同じ
内容：古墳時代の遺物を展示し、市貝町の古墳について学びます。

お問い合わせ：中央公民館 ☎68-0020



★しょうちゃんコレクションが新しくなりました★
「マッチラベル・たばこラベル展」

毎回ご好評をいただいている当館顧問のしょうちゃんコレクションが新しくなりました。今回のテーマは「マッチラベル・たばこラベル展」です。小さいパッケージをよく見ると、芸術性に富みそれぞれの歴史や背景を感じることができます。

レトロ感漂う昭和30年代のマッチラベルや、全種類そろった「東海道五十三次」のマッチラベルは特におすすめです。ご来館の際は、図書館入口左側のしょうちゃん専用ショーケースにぜひご注目ください。あなたのお気に入りが見つかるはずですよ。



★開館時間 9：30～17：30★

当面の間、9:30～17:30での開館となります。変更するときはお知らせいたします。ホームページやtwitterでも情報を更新しています。



★緊急事態宣言に伴う
図書館の利用制限について★

栃木県が緊急事態宣言の対象地域となったことを受け、当面の間（緊急事態宣言期間中）以下の対応を行うこととなりました。ご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

- ◆イベントの中止
- ◆図書館の利用は市貝町民限定
(町外の方は、返却・予約資料の受け渡しのみとさせていただきます)
- ◆自由席(新聞・雑誌コーナーほか)の利用不可
(2階指定席は最大2時間まで利用可能です。ご希望の方はカウンターでお申込をお願いします。)

※引き続きご利用いただけないサービス

- ◆飲食スペースの利用
- ◆視聴覚資料の館内視聴
- ◆検索端末(OPAC)・利用者用端末(PC)の利用
- ◆複写(コピー)サービスの利用

図書館カレンダー

2月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

3月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31※			

☐…休館日

※月末資料整理日

図書館のホームページをご活用ください

ホームページでは図書館からのお知らせ案内をはじめ、「資料検索」の他、資料の「予約」や貸出中の資料の「延長」をすることなどができます。

- 予約・延長については、
- 利用者カードの番号
 - パスワード※
 - メールアドレスの登録が必要です。



※カード作成時にお渡ししたレシートに表記されている英数字が「初期パスワード」です。ホームページ上で変更することができます。
 ※初期パスワードをなくしてしまったり、パスワードが分からなくなってしまった方は、カウンターで初期パスワードを再発行することができます。お気軽にお声がけください。

予約資料が図書館で準備でき次第、予約時に希望された方法でご連絡します。まだ使ったことがない方はぜひチャレンジしてみてください。



スタッフのおすすめ「鬼に関する本」

「ARTBOX ゆるかわ妖怪絵」

安村 敏信 // 著
(講談社)

節分の豆まきは、邪悪な鬼を払うためと言いますが。

何かと悪く言われがちな鬼もこの本の中では、他の妖怪たちと一緒に、ゆるくかわいく、ユーモラスに江戸の絵師によって描かれています。

そもそも日本の妖怪は、人間に危害を与えるものではなく、みんなでワイワイ騒いで、驚かせて喜んで、多少のいたずらをするくらいと考えられていました。

みなさんも、ゆるかわの鬼や妖怪たちがもし近くにいたら、と考えながらこの本を楽しんでみてください。

「鬼棲むところ」

朱川 湊人 // 著
(光文社)

「今昔物語」や「伊勢物語」などで、鬼と人をめぐる話を、著者流にアレンジした短編小説が8編収録されています。

一般的に鬼とは、人に危害を加えたり禍々しい存在ととらえられているかもしれませんが、実は人が誰しも持っている「怒り・憎しみ・妬み」などネガティブな感情が鬼を生んでいる、のではないのでしょうか。昔の人々は、鬼の存在を信じていて、奇妙なことが起きると、鬼の仕業と責任転嫁するのです。それが巡り巡って、自分に返ってきたりするわけです。

8編それぞれが独立しているようで、実は「酒吞童子(しゅてんどうじ)」という鬼をベースに繋がっているようにも感じられます。

アニメ「鬼滅の刃」が大人気ですが、「鬼」に注目して本を選んでみるのもおもしろいかもしれませんよ。

しゅうちゃんのひとりごと



戦後日本の代表的な作家の一人である三島由紀夫が45歳という若さで自決という壮絶な最期を遂げて、昨年11月25日でちょうど50年を迎えた。その頃、私も東京で働いていたので歴史的瞬間に立ち会っていた。特に職場が市ヶ谷の陸上自衛隊駐屯地の近くだったので、その物々しさに見に行ったのを覚えている。憲法改正のため自衛隊員に決起を呼びかける演説をしたが、果たせず割腹自殺をしたのである。衝撃的な事件で日本中が沸いた瞬間だった。「縦の会」という団体を組織していて「人間が自分の話す言葉の真意を誤りなく伝え、相手に正確に理解してもらえる範囲は、せいぜい10人が限界だ」という言葉を残していた。その頃、私たち同級生も少し感化され10人で「よこの会」というグループを作り、今でも交流を持っている。三島はこのまま行ったら日本はなくなってしまい、無味乾燥で空っぽな経済大国が極東に残ってしまうと憂いていた。戦後目覚ましい復興を経て1億総中流と呼ばれるほど豊かになった生活の裏側にある、空虚な社会を憂いたとされている。それから50年。少子高齢社会が進み人口が減り、日本は経済大国であり続けることさえ難しくなった。将来への不安ばかりが募るばかりだ。

お問い合わせ ☎68-4380